

(地元就職応援検討委員会)

スケジュール確認

第1回委員会 (内容) ・現状報告 ・意見交換	平成30年8月27日
↓	
第2回委員会 (内容) ・課題の抽出 ・課題の整理	平成30年10月1日
↓	
← 課題に対する取り組み提案取りまとめ	
↓	
第3回検証委員会 (内容) ・地元就職に関する具体的な取り組みの検討 ・最終報告に向けての基本方針	平成30年12月～ 平成31年1月
↓	
第4回検証委員会 (内容) ・最終まとめ	平成31年2月下旬
↓	
報告書を提出	平成31年3月中旬

会 議 録

1 附属機関等の会議の名称

第1回篠山市地元就職応援検討委員会

2 開催日時

平成30年8月27日(月)19時30分から21時30分まで

*受付時間(19時15分から19時30分まで)

3 開催場所

四季の森生涯学習センター 大会議室

4 会議に出席した者の氏名(敬称略)

(1) 委員 奥田格、岡澤直樹、池本太三、吉良山ひとみ、板羽茂雄、増成広造、中村相石、小島泰輔、内堀幸造(代理:池田みのり)、今西和義、降矢寿民、山下和秀、原田久人、藤本雅弘、田中慎児、河南秀和、丹後政俊

(2) 事務局 篠山市長 酒井隆明

政策部長 稲山悟、創造都市課長 竹見聖司

企業振興室長 小倉元一、企業振興室主査 北村春恵

5 傍聴人の数

0人

6 議題及び会議の公開・非公開の別

公開

7 非公開の理由

なし

8 会議資料の名称

①次第

②会議の公開について

③第1回篠山市地元就職応援検討委員会資料(①~③)

④篠山市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン・総合戦略の策定に向けたアンケート調査結果概要の報告

9 審議の概要

別紙

審議の概要

発言者	審議内容及び発言内容
<p>事務局 小島委員 内堀委員 (代)池田</p> <p>丹後委員長</p> <p>奥田委員</p> <p>池本委員</p> <p>板羽委員</p>	<p>1. 開 会</p> <p>2. あいさつ 稲山部長 あいさつ</p> <p>3. 委嘱状交付 稲山部長 各委員に委嘱状交付</p> <p>4. 自己紹介</p> <p>5. 委員会設置の経過説明 事務局から説明</p> <p>6. 会長・副会長の選任 委員会設置要綱第3条により、会長を互選によって決定 (会長) 丹後政俊委員 副委員長を委員長が指名 (副会長) 今西和義委員</p> <p>(これ以降の議事について、丹後委員長が進行)</p> <p>7. 報告事項 会議の公開について事務局から説明し、他に意見なく、会議録は記名方式とすることを決定。</p> <p>(1) 現状報告 資料①6～11ページについて、事務局より説明 資料②について、ハローワーク小島委員より説明 資料③について、県民局池田委員より説明</p> <p>市内3高校からも、現状報告をお願いします。</p> <p>現在40人×4クラス。ほとんどの生徒が進学し通学または下宿先を探す。そういった子どもたちが、どのように篠山に目を向けてもらうようにするのか、委員会で話し合えれば。</p> <p>近隣市町を含めた丹有地区内に、毎年7割弱の生徒が就職している。地域に貢献する人材を育てる目標を掲げ、平成30年度は約30人が篠山での地元就職を希望している。</p> <p>インターンシップなど、生徒の就職に関しては市内企業にお世話になっている。市外から通う生徒も篠山市内に就職している。</p>

丹後委員長	(2) 意見交換 報告などを踏まえ、それぞれの立場での現状委員の皆さんの意見を伺いたい。
降矢委員	丹波地域人材確保協議会の高校生対象企業紹介セミナー（資料③1ページ）について、今年から篠山市会場・丹波市会場両方の参加ができなくなった。開催日を2回に分けてでも開催すべき。また、7/14の就職フェアinたんばは学生の前期テストと重なっていたのか、参加者が少なかった。開催時期を考えるべき。
内堀委員 (代) 池田	高校生対象企業紹介セミナーは参加希望企業が大変増加し、全体で59社の申込があり、先着順で34社とした。プレゼンテーションができない企業は冊子への掲載となった。高校生の参加を伴うため、日程の追加は難しいかもしれないが、開催方法等協議会の構成団体で検討していきたい。
中村委員	企業も働く人の立場に立って、魅力ある会社にしていかなければならない。私は3年間市外で働き、篠山に帰ってきた。1度篠山を離れることで、篠山の良さを再認識できた。
山下委員	岡山出身だが、篠山はたくさんの魅力がある。外に1度出るからこそ、篠山の良さを感じるのではないか。福祉の仕事は篠山だけでなくどこでもあるので、篠山の魅力を多くの人に知ってもらおうことが大切。
吉良山委員	地元就職応援サイトを見たが、良い内容だと感じた。私も知らなかったし、もっと周知すべき。
岡澤委員	スマホで何でも調べられる時代。インターネットを通じて、自分の興味・適性・能力に合った篠山市内の企業を調べていくITシステムづくりが必要だと感じる。現に、大学選びは、そのようにしている子どもがほとんどである。
藤本委員	電気工事の仕事を知ってもらおうと、昨年度、篠山産業高校電気科で出張授業をさせていただいた。自分たちの仕事に直接触れてもらうことで、思ったより反応もあったし、身近に感じてもらえたと思う。これからも続けていきたい。種をまくことが大切だと思う。
奥田委員	新規学卒者の地元就職以外にも、離職者情報をつかむことも必要だと感じる。
河南委員	福祉人材の確保に向け、情報収集が大事と考え、大学のキャリアセンター等を訪問し、今日の学生の就労に向けての傾向を聞いた。その中で、若者自身がキャリアアップできる環境、仕事に取り組む上で、支援が得られるシステムがある事を望んでいると聞いた。達成感を実感できるなどの視点が必要だと感じた。地元就職された方々について将来にわたる支援が必要ではないか。
田中委員	新しく家庭を持つときに支援が得られることが、将来的に人材を呼び込むメリットになると感じる。

酒井市長	三世代同居や市内工務店利用の住宅補助、東部地区の定住促進重点地区の子育て支援策などアピールできる点がたくさんある。
原田委員	会社を知ってもらっても、行きたい会社とならない場合がある。今の若者は南へ行きたいという志向が強く、そんな若者に篠山でどんな夢を持ってもらえるのか。企業として利益も必要だが、社員満足度も大切にしたい。近年は篠山雲高校生が毎年就職してくれており、離職も少ない。
降矢委員	新規学卒の地元就職者に奨励金を交付する「ふるさと就職奨励金」は良い制度であると感じている。高校生の間に、もっと周知をすべき。
岡澤委員	大阪や神戸など都市部において、大学生等を対象とした篠山市での就職応援フェアを開催し、そこに多くの地元企業が参画していただく。地元就職を促進すると同時に「ふるさとの香りがする」イベントにすることによって、いったん離れたからこそ気づく篠山の良さにあらためて触れる機会としたい。懐かしい顔に出会える場にもなるだろう。
板羽委員	全国的に新卒3年以内の離職率も高い。進学や就職で出ていった人が帰ってくるというのが大きい。篠山市が行っているふるさと教育が生きてくる仕掛けづくりを、ポイントポイントで行っていくことが大切。
<p>8. その他</p> <p>(1) 第2回委員会日程調整</p> <p>10・閉会</p> <p>今西副委員長 あいさつ</p>	